

大学病院でも治らない胸部出口症候群による手のしびれが、一カ月半のプラセンタ注射で解消

清水整形外科
クリニック院長
しみずしんいち
清水伸一

手や腕のしびれと首や肩のこりに悩んだ

しびれや神経痛を訴えて来院する患者さんにプラセンタ注射を行うと、ごく短期間のうちに、劇的といってもいいくらい顕著に症状の改善する例が多く見受けられます。

ご主人と二人で果樹園を営む五十歳の女性は、四年前から、両肩にジリジリとしたしびれが現れ、近くの病院の整形外科にかかりました。そこでは肩こり

といわれ、血流を促す薬を飲みましたが、症状は悪化の一途をたどり、肩や首のこりがひどくなって、腕にまでしびれが出てきたのです。

そこで、別の病院に転院してMRI（磁気共鳴断層撮影）検査を受けたところ、今度は頸椎椎間板ヘルニアと診断されました。頸椎の牽引（引っばるこ）とトリハビリ（機能回復訓練）、投薬による治療を続けたものの、痛みやしびれがよくなることはなかったそうです。

さらに転院して診察を受けた結果、次は頸肩腕症候群という病名がつき、鎮痛薬とマッサージの治療を受けましたが、やはり改善しませんでした。

女性が次に訪れたのは、大学病院でした。神経内科の専門医に診てもらいテストを行ったところ、ようやく胸部出口症候群であることがわかったのです。

胸部出口とは鎖骨や第一肋骨などに囲まれているすきまのことで、ここを通るたくさんの神経や血管がなんらかの原因で圧迫されると、手や腕のしびれ、首や肩のこり、痛みなどが現れます。こうして起こる病気を胸部出口症候群といいます。

この女性の場合、果樹園の仕事で腕を長時間上げたままの姿勢を長く続けてきたのが原因だろうといわれたそうです。

一回の注射だけで痛みとしびれが半減

大学病院では胸部出口症候群

の治療は、痛みやしびれを和らげる対症療法が中心で、いい治療法はないといわれたといえます。そこで、この女性は自分で情報を集め、プラセンタ療法を行う当院を訪れたのです。

本人とよく相談し、両側の鎖骨の周辺に、ニアンプル（ニアンプルは「ニアン」のプラセンタを注射しました。すると驚いたことに、わずか一回の注射だけで、まもなく痛みとしびれが半分に和らいできたというのです。

この女性は、その後も週に一回ずつプラセンタの注射を受けに通院しました。その結果、六回の注射を終えた一カ月半後に、腕や手の痛みとしびれがほんの少し残る程度に消えてきて、日常生活と仕事に影響がなくなりました。

その後は、ときどきプラセンタの食品を飲んでいるだけですが、首や肩のこりに悩まされることなく過ごしたそうです。



清水伸一先生

◆プラセンタの20の薬理作用◆

- ①基礎代謝向上作用
- ②細胞活性化作用
- ③呼吸促進作用
- ④血行促進作用
- ⑤造血作用
- ⑥疲労回復作用
- ⑦血圧調節作用
- ⑧自律神経調節作用
- ⑨ホルモン調整作用
- ⑩免疫強化作用
- ⑪活性酸素除去作用
- ⑫抗突然変異作用
- ⑬創傷回復促進作用
- ⑭抗炎症作用
- ⑮抗アレルギー作用
- ⑯体質改善作用
- ⑰強肝・解毒作用
- ⑱妊婦の乳汁分泌作用
- ⑲食欲増進作用
- ⑳精神安定作用

